

図画工作・美術分科会

I 研究のあゆみ

- | | | |
|-----------|---|-----------|
| 4月22日(火) | 2025年度名教組教研オリエンテーション
(2025年度名教組教育研究活動の進め方) | 【教育館】 |
| 5月上旬～6月下旬 | 研究計画の検討、個別指導 | |
| 7月15日(火) | 研究内容(レポート)の検討
(第2次実践の検討と研究のまとめ方) | 【桜山中】 |
| 9月4日(木) | レポートの検討
発表内容の検討(リハーサル) | 【桜山中】 |
| 9月20日(土) | 第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会 | 【ウインクあいち】 |

II 研究協議の概略

図画工作・美術分科会では「探究し、追求し続ける造形活動」をテーマに実践・検討を進めてきた。子どもたちが試行錯誤し、納得のいく表現を見付けることができるように、題材を考えたり、手立てを工夫したりして「自ら考え、表現すること」「粘り強く表現を追求すること」「仲間とのつながりや対話を通して鑑賞すること」「生活や社会に目を向け、その中で造形的な視点をもつこと」を大切にした教育実践が報告された。その中で、表現活動に夢中になっている子どもたちの姿とともに、思いのこもった作品が報告された。また、『ナゴヤ学びのコンパス』で重視したい学びの姿を意識した実践も多く報告された。

『ナゴヤ学びのコンパス』で重視したい学びの姿 実践例

「自分に合ったペースや方法で学ぶ姿」

- 振り返りカードや制作環境を工夫し、思いを自由に表現することができる実践
- 様々な表現方法を知り、選択することで自分らしい表現をすることができる実践

「多様な人と学び合う姿」

- 表現したいことを、物語の設定や他者との会話から見付けることができる実践
- 友達の作品の好きなどころに気付き、伝え合うことで、自分の好きに気付く実践

「夢中で探究する姿」

- 材料との出会いや試しの活動を工夫し、「もっとやりたい」という姿を引き出す実践
- 「試す」「見付ける」「工夫する」ことで、思いを自分らしく表現できる実践

III 今後に残された課題

今年度「図工・美術の授業を通して得られる力とは ～キャリア教育の視点を踏まえて～」というテーマで意見交流を行った。冒頭に「キャリアタイム」についての概要と、育みたい能力について触れた上で話し合いは行われた。

今回発表された実践や、そこで見られた子どもの姿と関連させながら、図工・美術の授業においてもキャリア教育で育みたい力は育まれているのだということが意見として発表された。その中で、保護者の方から「子どもが持って帰ってきた作品に対して『どんなことを考えながらつくったの?』などと聞くきっかけになるので、図工・美術の授業を通してキャリア教育もやっているということをもっと保護者に知らせてほしい」という要望があった。キャリアタイムは総合的な学習の時間や、特別活動の時間に限らず、各教科の授業ともつながっているのだということをもっと保護者の方に伝えていく必要がある。